

メタセコイア

(土屋中学校の樹)

<学校教育目標>

～ 夢に向かって ～

第8号

令和 7 年 10 月 31 日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

『ぼく モグラ キツネ 馬』

校長 小熊 誠

やっと日本の秋がやってきました。爽やかな、真っ青な高い空が広がっています。そんな中土屋は、「秋の陣」真っ盛りです。市新人戦を勝ち抜いた、団体では剣道女子、個人では、陸上男女・卓球男女・柔道男女・剣道男女・水泳男女・硬式テニス男子が県大会に臨みます。駅伝も、42名の本年度土屋最強チームが勝負を挑み、男女とも当日ほぼ全員がベストで走り、昨年より1歩前に前進しました。吹奏楽部は、4年連続全国出場を果たし、3年連続全国金賞を勝ち取りました。素晴らしい活躍です。そして、40周年式典並びに合唱コンクールです。土屋14クラス、14通りの、世界でたった一つの合唱が、私たちの体全体に染みわたり、魂に語り掛けてきました。3年5組「親知らず子知らず」が、土屋の看板を背負い、11月5日、市音楽祭で、土屋の魂と誇りを胸にデビューしてきます。歌い終わった後の会場のどよめき、そして感動の渦、楽しみです。当日来賓と審査員として御臨席された、土屋9代校長であり元さいたま市教育長である 桐淵 博様 より以下の身に余る光栄なお手紙をいただきました。このお手紙の御言葉に甘んじることなく、土屋は、次の10年に向けて、進化をし続けます。まずは、11月1日の「文化発表会(GRB祭)とバザー」です。保護者地域の皆様、土屋の更なる輝きに御注目ください。

中学生の皆さんの合唱を聞くのは久しぶりでしたが、声の響きに一年生、二年生と驚くほどの成長が見えます。特に三年生の演奏はどのクラスもとでもよかったです。『信じる』、『結 ゆいー』、『虹』といったNコン(NHK全国学校音楽コンクール)の課題曲となった比較的新しい曲とともに、『モルダウ』、『親知らず子知らず』といった、昭和の時代にも歌われた古い曲まで、幅広い演目に驚きました。そしてどの演奏からも、想いをしっかり届けようとする皆さんの情熱が胸に染みてきました。

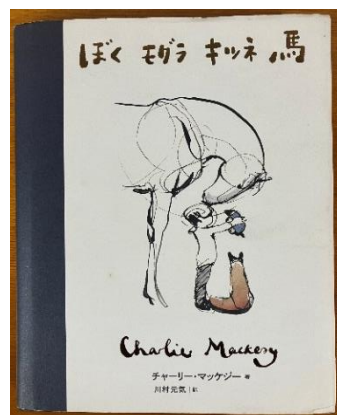
感動したのは合唱だけではなく、式典での代表の生徒さんのあいさつはとても立派でした。また、クラス紹介をはじめ全体の進行、運営の主役として活躍する皆さんの姿も素敵でした。鑑賞態度、審査員席の前を通るときに身をかため敬意を表す姿勢、表彰式での歓声と拍手……。どれも私の心をあたたくしてくれました。

そして、プログラムにある実行委員長さんの文章に感銘を受けました。この文章は合唱の本質を見事に表現しています。「努力」、「挑戦」、「成長」という三つの言葉をループのようにつないで、「違う星から来た宇宙人合唱団」が「努力」と「挑戦」を通じて「成長」を手にする様子を描いています。美しい音楽のような文章ですね。私は、「来てよかったな」と心から思いました。

これからの人生、皆さんにも「出会い」、そして「別れ」があると思います。それは「喜び」でもあり、「悲しみ」でもあります。でも悲しくても、今の私のように救われることがあります。救ってくれるのは、音楽であったり文学であったり、美術であったり、演劇かもしれません。スポーツで流す汗が希望になるかもしれません。いや、自然や宇宙の美しさがこの寂しさを慰めてくれるかもしれません。いずれにしても、ここに存在する、人のあたたかさを感じるような気がします。

どうぞ皆様お元気で。それぞれの道を探して、しっかり歩いていってください。自分の道が見つかるまでもう少しかかるかもしれません。それでいいのです。大丈夫。あせらず、ゆっくり歩みを進めてください。皆様の幸せを祈ります。(手紙の内容は一部省略させていただいています。)

さて、11月は、県の「いじめ撲滅強化月間」でもあります。そこで、1冊の本を紹介します。「ぼく モグラ キツネ 馬」という本です。登場人物は題名の通り、1人のぼくと3匹の動物です。ぼくと動物たちが会話をしながら旅をするお話です。沢山の感慨深い会話が交わされますが、特に、ぼくと馬の「いままでにあなたがいったなかで、いちばんゆうかななことは？ ぼくがたずねると馬は答えた。“たすけて”」という会話に強く心が揺り動かされました。“たすけて”は、決して逃げる言葉ではなく、ゆうかなな言葉なのです。このことを生徒たちが、確実に自覚できる環境と安心して話せる仲間を創ることが私たちには必要不可欠だと実感しました。中学校の3年間、学校の主役である生徒たちにはいろいろなことがあります。嬉しいこと、楽しいことばかりではありません。イヤなこと、辛いことにも出くわすかもしれません。そんな時生徒たちに、馬のように、“たすけて”と言えるゆうかなな心が必要です。そして安心して“たすけて”と言える環境と仲間が必要です。皆で、生徒たちの発する小さなサインを見逃すことなく、皆で見守り、皆で声を掛けていくことが、生徒たちのさらに輝く笑顔に繋がるはずです。どうぞ今後とも温かい御支援と御協力をよろしくお願いいたします。



希望の登校 笑顔の活動 満足の下校